茨高 茨中 春秋

発　行
茨高・茨中ＰＴＡ
代　表　砂押完児
編　集
茨高・茨中文化広報委員会
水戸市八幡町16－1
電話　029(221)4936
茨高・茨中公式ホームページ
http://www.ibaraki-jsh.ed.jp
印　刷　いばらき印刷㈱

ごあいさつ

ＰＴＡ会長　砂押完児

ＰＴＡ会員の皆様におかれましては、平素より茨城中学・高等学校におけるＰＴＡ活動にご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。この度、令和二年度茨城中学・高等学校ＰＴＡ会長の任を仰せつかりました砂押完児と申します。私自身は本学のＯＢでもなく、また、茨城の出身でもないということから、この大役を全うできるか、不安と懸念と焦燥しかありません。しかし、今では茨城という地を愛しておりますし、地域への貢献という意味においても、本学の発展の一助となるべく、誠心誠意努力していきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、浅学な私といたしましては、本学の建学の精神である「報恩感謝」を少し勉強させていただきました。本来は仏教での言葉で「知恩・感恩・報恩」があり、その反対に「忘恩・背恩・逆恩」があるそうです。人々が受けた良い恩を知り、感謝し、それを返す（報いる）ことで、好循環な社会をつくり、皆に幸せな未来が訪れるということのようです。自分を認めてくれている存在や助けてくれている存在（恩）を確認し、その恩に感謝しつつ、切磋琢磨することで自信を持ち、その自信が謙虚さとなり、他人に対する寛容な精神が作られ、より大きな社会平和へと繋がる。そんな大きな、人としての生き方や在り方がこの「報恩感謝」という言葉に込められていると感じます。

本学の教育目標「社会報恩に厚い真のリーダーの育成」が正にそれであり、学業だけにとどまらない、魅力ある人材の育成の必要性を謳っているのだと思います。こんな素晴らしい精神を子どもたちに肌で感じてもらうことがＰＴＡの最大の役割であると考えます。

そして、ＰＴＡは一部の役員だけのものではなく、本学にお子様を通わせている保護者の方々と教職員が主体的に参加する団体であると思います。新型コロナ禍により、現状は多くの方々に参加していただく機会を作ることが難しい時期ですが、保護者の方々にはできるだけＰＴＡの活動に積極的に参加、協力していただければと思っております。

最後になりますが、私の「報恩」となるべく、次代の子どもたちのために全力で活動していきたいと思いますので、倍旧のご支援・ご協力をお願いいたします。

「ほーっ」…君の話をじっくり聴きたい

校長　鬼形正人

四月から五週間の休校、その後の三週間の分散登校。ようやく六月八日（月）より通常登校となりましたが、その学校生活は例年とは全く異なるものになっています。多くの学校行事が中止または延期となり、部活動の大会も早い時期に中止が決定されました。それは生徒達にどんな影響をもたらすのか、現段階では推し量ることはできません。しかし、今できることは、しっかりと前を向くことに尽きると思います。吹奏学部の生徒がマスコミのインタビューに答えていました。

「大会の中止はすごく残念だけど、誰が悪いわけでもない。気持ちを切り替えて受験勉強がんばろうと思います。」

オンラインによる指導は、あらためて対面での授業・指導の意味を問い直す機会でもありました。特に対面で声に出して話をし、それを誠実に聴くことの大切さを再認識しました。対話は「自分は独りではない」と実感できる最高の術（すべ）です。ＳＮＳやメールではだめなのです。単なる情報の交換ではなく、必ずしも合理的・論理的である必要もなく、ただとりとめもなく話をする。話すことで漠然とした自分の中の何かが形を成してくる。他から与えられたものではない自分だけの何かです。話を聴いてくれる人がいることは、とても幸せなことです。

ここで大切にしたいことがあります。話を聴く人が是非とも意識してほしい約束事です。「どうして？」とか、「それどういうこと？」とかの質問をしてはいけません。きちんと聴いていることを分かってもらうために、ついこんな質問をしてしまいがちですが、これはだめです。「話をする」とは、正確に情報を伝達することとは違います。曖昧な表現の意味を正確に確認することなど必要ありません。河合隼雄という著名な心理学者がいます。日本で初めてユング派の分析家の資格を取られた方です。箱庭療法を紹介されたことでも知られています。この先生がこのように述べています。「人の話を聴く時、私は『ほーっ』とだけ言う。これで充分。お話を聴いて、心が動かされていることが伝わればそれで充分。」

二十年以上前のテレビの連続ドラマに「白線流し」というのがありました。「白線流し」は確か岐阜県の高校の行事だったはずですが、ドラマは長野県松本の高校が舞台でした。その中で印象深いセリフがありました。「学校生活で大事なのは、何を学んだかではなくて、どうやって学んだかだと思う。」

このままでは「卒業アルバムに載せる写真がない」という声を聞きました。大丈夫です。三年生の諸君。まだまだ卒業までの間で、多くの仲間達とともにたくさんの学びを体験できます。茨高らしく、茨中らしく、生徒と教職員が一体となってみんなで学ぶ、学びの形を大切にしていきましょう。こういう状況だからこそ。

入学によせて

主体的選択力を！

高校一学年主任
木村　智樹

コロナ禍による休校期間が明けて、一か月が経過しましたが、皆さんを見ていると、コロナ禍以前の世界に戻ったかのような錯覚に陥ります。皮肉にも学校と世の中は近いようで全く遠い存在です。コロナ禍の波が去った後の世界はどうなっているでしょうか。最近では「ニューノーマル（新しい普通）」という言葉をよく耳にしますが、これまでの価値観では通用しない世の中がすぐそこまで来ています。当然、君たちは「従来の高校生＋α」に成長し、来るべき「ニューノーマル社会」に備えなければなりません。激変する社会を乗り切るうえで、この「＋α」こそが、肝になります。

全ての人に等しく与えられるもの、それは「時間」と「意志」です。この二つは何人たりとも、奪えません。高校時代の九千四百六十万八千秒を支配するのは皆さん自身です。敢えて「目の前にある苦痛」を選択する勇気をもってください。さらに、人は自らの成長のため「承認欲求」というものをもっていますが、これが強すぎるのも困りものです。あなたの人生はあなた自身のものであって、他人のものではありません。成熟した判断力の元、孤独を恐れず「自分の意志」の中で、生き抜いてください。それでは皆さんの成長を楽しみにしています。

未来への自覚

中学一学年主任
長谷部将司

新入生の皆さん、すでに数ヶ月経過しましたが、改めて入学おめでとうございます。

「今年は何かと異例続きですが…」最近ではこの言葉が枕詞のように世間や校内でもあふれています。ですが、皆さんは実際のところ過去に中学生（高校生）を経験したことがないので、「異例」でない「通例」などわからないというのが実態でしょう。確かに休校が長引き行事も中止になるなど、さまざまな変化が教育現場はおろか社会全体に起こっていることは事実です。ただ、歴史的に見れば大きな変化が起きない時代の方がむしろ例外的で、本来的には常に予期できないことが起こるものです。そして、その際には古きを知らない、故に古きに縛られない若者が、次なる新しい何かを生み出していくのです。

間違いなく若者である皆さんは、そのような未来を切り開く可能性を十分に秘めた存在です。様々なことが今後も起こると思いますが、自分に自信をもって今を生き抜いてもらいたいと切に願っています。

新任教職員の紹介

ドミニク・フルニエ（英語）

こんにちは。私は十年と少し水戸に住んでいるカナダ人です。茨中・茨高での新たなチャレンジの始まりにわくわくしています。これまでも、教師として、沢山の経験をしていますが、今回も新たな学びと経験を重ねる良い機会だと考えています。ますます良い教師になれるように、ベストを尽くして参りますので、宜しくお願い致します。

加藤　氣吹（国語）

加藤氣吹と申します。担当教科は国語です。

私自身も茨中・茨高の卒業生です。お世話になった母校にこのような形で戻ることができ、大変嬉しく思っています。

中学・高校の貴重な六年間を支えられるよう、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

髙橋　周作（英語）

高校一年の学年付になりました。教科は英語を担当します。難解な英文を読みこなすことができるよう、最大限支援していきます。英語という言語がもつ魅力や奥深さも感じることができる授業もしていきたいと思います。よろしくお願いします！

石崎　徹（司書）

今年度より学校司書として着任しました。本は想像力を豊かにする最たるものだと思います。そして、想像力は日常生活の全てに繋がります。未来の生徒の豊かな想像力を持って活躍する姿を想像しながら、生徒と本を繋げられるよう日々尽力していきたいです。

阿久津一将（国語）

中学一年所属で国語を担当している阿久津と申します。十数年ぶりに母校に戻ってこられることを大変うれしく思っています。大学では国文学を専攻していました。自分の専門教科の勉強はもちろんですが、英語の勉強もしたいと最近思っています。

レイチェル・アシュトン（英語）

こんにちは！レイチェルと申します。ニュージーランドでは、精神保健に関する看護学専攻でした。東京では医療英語の教師でした。英語教授法の修士号も持っています。旅が大好きで、モロッコ、アイルランド、タイ等々多くの国を訪れたことがあります。よろしくお願いします！

濱村　純平（数学）

初めまして。本年度からお世話になります。濱村純平と申します。担当科目は数学です。以前勤めていた学校で吹奏楽部の顧問をしていたこともあり、吹奏楽が好きです。茨城高校の吹奏楽部の演奏を聴ける日を楽しみにしています。よろしくお願いします。

照山　友教（地理）

最後の男子校世代で、この度二十年ぶりに母校に戻ってまいりました。専門の地理をはじめ日々の学習方法はもちろんのこと、部活動から人生の悩み相談まで、とことん面倒みます。趣味は料理で、アントラーズとホークスが好きです。よろしくお願いいたします。

鈴木　純子（英語）

はじめまして。英語科の鈴木です。県立高校の教師として長年働いてきましたが、今年度からお世話になることとなりました。よろしくお願いいたします。まだまだ分からないことばかりですが少しでもお役に立てるよう努力していきます。生徒の皆さん、廊下等で見かけたら気軽に声をかけてもらえたらうれしいです。

石井乃里子（事務）

四月より事務職員として赴任しました。これまで高校情報講師（埼玉県）、レコード会社、ＩＴ企業等で勤務して参りましたが、この度歴史ある茨城高校・中学校にご縁をいただいて光栄に思います。どうぞよろしくお願いいたします。

国際教養コース

国際教養コースは、本年度より開設された新しいコースで、全員が高二で約半年の留学をします。授業もユニークで、様々な独自授業があります。今回は、ネイティブ教員の授業である「Ｐｒａｃｔｉｃａｌ Ｅｎｇｌｉｓｈ」を紹介します。ジェフ先生に加えて、新任のレイチェル先生（ニュージーランド出身）の二人が担当です。休校中の授業では新任のドミニク先生（カナダ出身）も授業を行って下さいました。国際教養コース生はニュージーランド留学を控えていて、英語の重要性を理解しているので、とても熱心で積極的です。注目すべきは、授業が完全にペーパーレスであることです。各生徒がラップトップコンピューターを持っており、作業の全てをクラウド上で行っています。

コロナウイルスパンデミックによる休校中は、Ｚｏｏｍによる授業を実施しました。家庭から参加してお互いに話すことができるので、楽しく授業ができました。時に犬が吠えている声が聞こえたり、ある生徒は起きたばかりだったりするのも面白かったです。コンピューターを授業で利用することで、Ｇｏｏｇｌｅ Ｅａｒｔｈを使ったバーチャルツアーを行ったり、図書館などに行かないで、教室で調べものやプレゼンテーションを行ったり、などなど、様々な新しいスタイルの授業への道が開かれます。

授業では、読解力とスピーキング力を磨いています。現在は、「八十日間世界一周」という小説を英語で読み、各章についての調査をしたりレポートを書いていたりしています。また、英語のロールプレイの練習も行っています。丁寧に断る表現の練習を、ロールプレイで行っています。こうした授業を今後も継続していくことを、とても楽しみにしています。

Ｊｅｆｆ Ｇｏｓｓｅｎ

医学コース

茨城高等学校では、医学部や医療系学部への進学志望者を対象に、「医歯薬外部連携講座」の取り組みを長年にわたって行ってきました。

昨年度から「医歯薬外部連携講座」を発展的にリニューアルした「医学コース」を新たに開設しました。高校生のみ参加が可能だった「外部連携講座」から、中学三年生にまで裾野を広げ、より早い段階から医師・医療人を目指す生徒をサポートする態勢を整えました。中高一貫生はもちろん、高校からの入学生も高校一年生から医学コースへの参加が可能になりました。もちろん、そこで学ぶ内容も一段と深化したものになっています。医学部受験に必要なスキルを学ぶだけではなく、様々な大学医学部や、病院、医療施設などと連携し、見学や実習、講話などを通じて、将来、医療人として社会に貢献できる人材作りを目指しています。

具体的な取り組みとして昨年度は医学コースⅠ期（中二・高一）で、医療人として必要な倫理観や使命感、社会的責任に対する自覚を育むことを中心に講座を設定していきました。更に、数多くの校外研修も実施しました。医学コースⅡ期（高一・高二）では医師との対談をはじめとする医学部受験に向けてモチベーションを上げていく講座を設定していく一方で、医科学分野の論文作成や小論文指導・面接指導など受験に必要なスキルを磨く医学部入試対策を行ってきました。

今年二月には本校と水戸医療センターとの間で連携協定を結びました。地域医療に携わる人材育成を目標とする今回の協定締結により、医師の先生方による講座や病院施設の見学、病院職員の方々と生徒との懇談など、実際の医療現場に触れる様々な体験が可能になり、地域医療に関わる講座が今後益々充実した内容へと変わっていきます。

こうした「医歯薬外部連携講座」からの継続的な取り組みもあって、本校では過去十一年で医学部医学科への合格者は一八〇名を超え、数多くの卒業生が医療の第一線で活躍し、茨城県内でも地域医療の担い手となっています。

これからも茨城高等学校・中学校では、「医学コース」を通じて、茨城県の医師不足解消の一翼を担っていきたいと考えています。

医学コース長　高木　哲

中学・高校 クラス紹介

中学３年Ａ組

《クラス目標》　担任：関口亜希子

一人一人の良さがクラスを作り、
なんだか不思議な団結力のあるクラス

中学３年Ｂ組

《クラス目標》　担任：野口　綾音

個性を大切にし、
文武両道を目指すかっこいいクラス

中学３年Ｃ組

《クラス目標》　担任：熊山こずえ

男子22名 女子19名、全員が静かな熱意を心に、
15歳を駆け抜けることを願います

中学３年Ｄ組

《クラス目標》　担任：関　佑太

自分のやりたい事を発見することです
中学３年としての１年間、日々充実させてほしいと思います

中学２年Ａ組

《クラス目標》　担任：廣光　正人

明るく楽しく！笑顔で仲良し！
団結の２－Ａ

中学２年Ｂ組

《クラス目標》　担任：佐藤麻希絵

クラスの抱負は「楽しく学ぶ」です
何でも挑戦してみよう！

中学２年Ｃ組

《クラス目標》　担任：内田　裕史

何事にも粘り強く、積極的に
挑戦するクラスを目指しています

中学２年Ｄ組

《クラス目標》　担任：福田　賢二

エベレスト登頂！！

中学１年Ａ組

《クラス目標》　担任：吉地　克弘

四十人四十色
～かしこく 優しく たくましく～

中学１年Ｂ組

《クラス目標》　担任：田中　優志

毎日楽しい気分で通えるクラス
を目指します！

中学１年Ｃ組

《クラス目標》　担任：奥村　広太

メリハリのある楽しいクラス

中学１年Ｄ組

《クラス目標》　担任：八文字　栞

お互いの個性を尊重でき、
メリハリのある、笑顔あふれるクラス

中学生徒会紹介

令和２年度前期中学生徒会中央委員

三年Ｂ組　**本川　暁大**

皆さんこんにちは。前期中学生徒会長に就任しました、三年Ｂ組の本川暁大です。今年の前期生徒会の目標は、県内各地から通っている生徒たちのために、緊急時の保護者への連絡手段としてスマートフォンの持ち込みを許可することや、先日新しく設置された自動販売機の中学生の使用を可能にすること、インクカートリッジとペルマークの回収を継続することです。今年の前期生徒会のメンバーの内の七割は、昨年や一昨年に生徒会役員になった経験があります。そのため例年に比べて行動力のある生徒会になると考えています。休校期間が長引いて、活動できる期間が短くなってしまいましたが、中学生徒会の応援をよろしくお願いします。

高校１年Ｆ組

《クラス目標》　担任：横倉　友博

If you want to go fast, go alone.
If you want to go far, go together.

高校１年Ｄ組

《クラス目標》　担任：小盛　栄一

元気！ハツラツ！高校１年Ｄ組！！

高校１年Ａ組

《クラス目標》　担任：及川　純

メリハリをもちながら、
日々何事にも全力で突き進むクラス！

高校１年Ｇ組

《クラス目標》　担任：中山　佳紀

We are unstoppable！

高校１年Ｅ組

《クラス目標》　担任：沼生　詩織

一人一人が自立しつつ
補い合えるクラス

高校１年Ｂ組

《クラス目標》　担任：坂本　佳朗

様々なことに自ら挑戦し、
最後までやり遂げること

高校１年Ｃ組

《クラス目標》　担任：井上　奈穂

十人十色を認め得意不得意を互いに
補い合える社会性バチのようなクラス

高校２年Ｆ組

《クラス目標》　担任：吉瀬　敦彦

限られた時間を大切にし、
お互いを高めあうクラスを目指します

高校２年Ｄ組

《クラス目標》　担任：浦井　雅之

進路目標の具体化・早く受験生になる
これしかないでしょう

高校２年Ａ組

《クラス目標》　担任：小林　秀樹

①目標をもって学習に取り組もう
②敬意をもち相互理解に努めよう

高校２年Ｇ組

《クラス目標》　担任：蒔田　宜幸

各々の目標に向かって研鑽し、
全員で限りある「今」を楽しむ

高校２年Ｅ組

《クラス目標》　担任：安達　紘人

誠実、尊重、献身をモットーに
全員が切磋琢磨し合えるクラス

高校２年Ｂ組

《クラス目標》　担任：岡部　将也

夢叶うまで何事にも全力で挑戦！！

高校２年Ｃ組

《クラス目標》　担任：上村　和朗

テストだけでなく、笑顔も満点な
笑い声がたえないクラスに！

高校３年Ｆ組

《クラス目標》　担任：鈴木普慈夫

クラス全員で互いに助け合い
全員志望校合格！！

高校３年Ｄ組

《クラス目標》　担任：作山　友孝

挨拶、一所懸命、克己、一日一日を省みて、
昨日よりも素晴らしい自己の発見を

高校３年Ａ組

《クラス目標》　担任：加倉井　東

有所不足　不敢不勉

高校３年Ｇ組

《クラス目標》　担任：吉田　尚史

わたしたちのミライへの想い。
何も足さない。何も引かない。

高校３年Ｅ組

《クラス目標》　担任：島　正昭

Dream it.　Wish it.　Do it.

高校３年Ｂ組

《クラス目標》　担任：遠藤　純

高校よりももっと充実した
大学生活を目指して「今」をがんばる！

高校３年Ｃ組

《クラス目標》　担任：高村　須恵

自律・自立　～自らの翼で翔べ～

令和元年度後期生徒会の活動

三年Ｅ組　**桑折　楓稚**

令和元年度後期生徒会の会長を務めさせていただきました、桑折楓稚です。私たちは、学校行事の運営に加え、公約の達成に向け、月曜日の放課後及び水曜日と金曜日の昼休みに生徒会のメンバーで集まり、活動して参りました。今年度は新型コロナウイルスの影響で長期の活動休止に陥り、後期クラスマッチの中止といった、生徒会活動において大変な痛手を受けました。しかし、担当の遠藤先生をはじめとする多くの先生方、そして生徒会メンバーの多大な協力により、公約を達成することができました。これは私一人では決して成し遂げられなかったことだと思います。今回の生徒会活動はどんな困難も多くの人の協力によって成し遂げることができるということを身をもって知ることができた、大変有意義なものでありました。私たちが僅かながらも、茨城高校の歴史の一部となることができたことを大変嬉しく思います。最後になりましたが、生徒会活動に協力して下さった皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

休校から登校になった生徒への影響について

スクールカウンセラー　**阿部　誠一**

私はスクールカウンセラー勤務後に、学習塾を経営している。コロナによる休校期間でまず驚いたのは、それまでの学期では考えられないような「疲れやストレスの少なさ」であった。

いつもより集中して課題に取り組んだり、以前なら反発してきたような私の言動へのリアクションが、やけに素直でおとなかであったり。如何に彼らの日常が、気忙しく何かに追い立てられているかを知る機会になったように思う。

日本は、ストレス社会・比較的ブラックな社会と言われる。「がんばる」のが普通で偉くて、「ゴール設定のない、出来る限りの努力」を要求されがちだ。当然我々大人は、成長のため「良かれと思って」そう指導するのだが、「認められない／許されない／自己否定させられがちな」感覚を持つ彼ら世代には、相当な負担・圧迫感なのが現実なのかもしれない。実際、日本の若者の自己肯定感はＯＥＣＤ最下位である。

「よくやってるね。」「何かしら抱えてるんだろうね。」

休息から、緊張へ。五月病のように必ず反動が来る。コロナうつの本格化も、経済の停滞とも重なるこれからであろう。我々に必要なのは、我々の違和感の原因究明ではなく、我々には理解できない彼らのストレスの存在を「共有しようとする」意識と態度なのかもしれない。

令和元年度後期高校生徒会中央委員

高校生徒会が設置した自販機